



IPCCの概要、今期の活動及び今後

IPCCシンポジウム「気候変動を知る ～最新報告書が
示すこれまでとこれから～」(2021年10月)

田辺清人(IPCCインベントリータスクフォース共同議長)



ipcc
INTERGOVERNMENTAL PANEL ON climate change

IPCCの概要

IPCCとは

- 気候変動に関する政府間パネル
Intergovernmental Panel on Climate Change
- 1988年、世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）が設立し、国連総会がそれを是認
- 現在、195か国の政府が加盟
- 政策検討のために科学者が協力して助言を行う仕組みを、史上初めて世界規模で実現
- 人間が引き起こす気候変動に関する科学的、技術的、社会経済学的な情報を評価
 - ・ 自ら研究を行うわけではない
- 報告書は政策に関わるものであるが、政策を規定するものではない



IPCC 事務局
(在スイス・ジュネーブ)



執筆者、査読者 等の専門家



IPCC評価報告書 (Assessment Reports)

➤ 気候変動に関する総合的な科学的・技術的評価報告書

IPCC		UNFCCC
第1次評価報告書 (FAR : 1990)	⇒	UNFCCC の合意 (1992)
第2次評価報告書 (SAR: 1995)	⇒	京都議定書の合意 (1997)
第3次評価報告書 (TAR: 2001)	⇒	マラケシュ合意 (2001)
第4次評価報告書 (AR4: 2007)	⇒	バリ行動計画 (2007) コペンハーゲン合意 (2009) カンクン合意 (2010)
第5次評価報告書 (AR5: 2013-14)	⇒	パリ協定の合意 (2015)
第6次評価報告書 (AR6: 2021-22)	⇒	?????

IPCC評価期間と各種報告書

第1期 1988～1991	第2期 1991～1996	第3期 1996～2002	第4期 2002～2008	第5期 2008～2015	第6期 2015～2023
	FAR概要と1992年補遺 影響と適応評価のための技術的ガイドライン 放射強制力と排出シナリオに関する特別報告書 インベントリーガイドライン(1994年版、1996年改訂版)	地域別影響特別報告書 航空と地球大気特別報告書 排出シナリオ特別報告書 土地利用・土地利用変化及び林業(LULUCF)特別報告書 技術移転特別報告書 インベントリー良好手法指針	CO2回収・貯蔵(CCS)特別報告書 オゾン層保護と地球の気候系特別報告書 LULUCFのインベントリー良好手法指針 2006年版インベントリーガイドライン	再生可能エネルギーと気候変動緩和に関する特別報告書 気候変動適応促進のための極端現象・災害リスク管理に関する特別報告書 湿地に関するインベントリー補足ガイダンス 京都議定書のためのインベントリー補足ガイダンス	1.5℃の地球温暖化に関する特別報告書 土地関係特別報告書 海洋雪氷圏関係特別報告書 2019年改良版インベントリーガイドライン
FAR WG1 FAR WG2 FAR WG3	SAR WG1 SAR WG2 SAR WG3 SAR 統合	TAR WG1 TAR WG2 TAR WG3 TAR 統合	AR4 WG1 AR4 WG2 AR4 WG3 AR4 統合	AR5 WG1 AR5 WG2 AR5 WG3 AR5 統合	AR6 WG1 AR6 WG2 AR6 WG3 AR6 統合

第6次評価期間（2015～2023年） のIPCCの活動

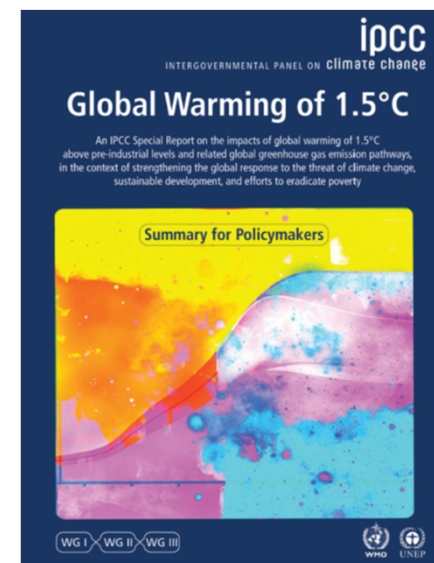
1.5°Cの地球温暖化に関する特別報告書 (SR15)

2018年10月

1.5°Cの地球温暖化：気候変動の脅威への世界的な対応の強化、持続可能な開発及び貧困撲滅への努力の文脈における、工業化以前の水準から1.5°Cの地球温暖化による影響及び関連する地球全体での温室効果ガス(GHG)排出経路に関する特別報告書

<https://www.ipcc.ch/sr15/>

- 人間活動は、工業化以前からすでに約1°Cの地球温暖化をもたらしたと推定される
- 気候モデルは、現在と1.5°Cの地球温暖化の間、及び1.5°Cと2°Cの地球温暖化の間には、地域的な気候特性に明確な違いがあると予測
- 地球温暖化を1.5°Cに抑えるモデルの排出経路では、世界全体の人為起源のCO₂の正味排出量が、2030年までに2010年水準から約45%減少し、2050年ごろ正味ゼロに達する



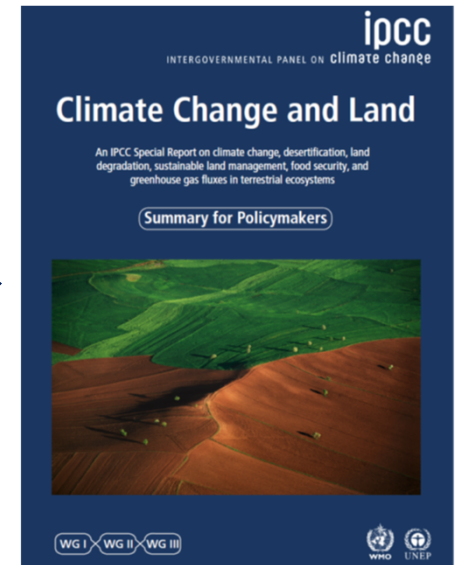
気候変動と土地に関する特別報告書 (SRCCL)

気候変動と土地：気候変動、砂漠化、土地の劣化、持続可能な土地管理、食料安全保障及び陸域生態系における温室効果ガスフラックスに関する特別報告書

2019年8月

<https://www.ipcc.ch/srccl/>

- 世界の食料システムにおける 食料の生産・製造の前後に行われる活動に関連する排出量が含まれた場合、人為起源の 正味の 温室効果ガスの総排出量の21-37%を占める
- 気候変動への適応及び緩和に寄与する多くの土地に関する対応は、砂漠化、土地劣化や食糧安全保障の対策ともなる。ただし、一部の選択肢は土地転換需要を増大させ、負の副次的効果につながりうる
- 食品ロス及び廃棄物を削減し食生活における選択に影響を与える政策は、持続可能な土地管理、食料安全保障強化、GHG排出削減、貧困撲滅、公衆衛生改善にもつながる



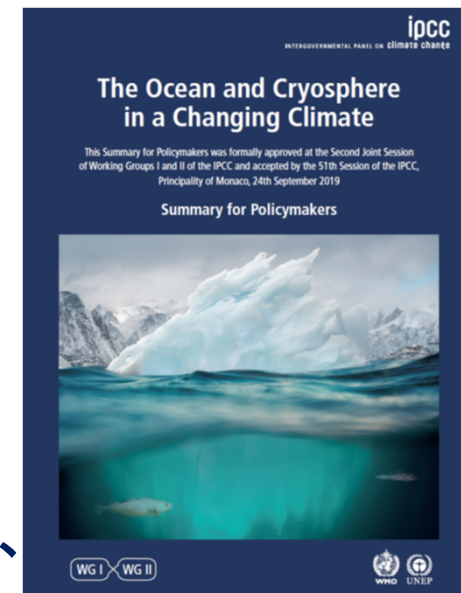
変動する気候下での海洋と雪氷圈に関する 特別報告書 (SROCC)

2019年9月

変化する気候下での海洋・雪氷圈：変化する気候
下での海洋・雪氷圈に関する IPCC特別報告書

<https://www.ipcc.ch/srocc/>

- 世界全体の海洋は、ほぼ確実に1970年より
昇温しており、気候系における余剰熱の90%を
超える熱を取り込んできた
- 海洋がより多くのCO₂を吸収することによって、
海面（表面海水）の酸性化が進行している
- 世界平均海面水位は、グリーンランド及び南極の氷床から
氷が消失する速度の増大、氷河の質量消失及び海洋熱膨張
継続により、ここ最近の数十年加速化して上昇している
- 漁獲可能量の減少、海洋生態系の損失・劣化等により、人
間にとって重要な海洋の価値が損なわれる



2019年改良版温室効果ガスインベントリー ガイドライン（方法論報告書）

2019年5月

<https://www.ipcc-nggip.iges.or.jp/public/2019rf/index.html>

- IPCC第49回総会（2019年5月、京都）で承認
- 2006年に発表され、世界中の国で使われているインベントリーガイドラインの更新・改良版
- 温室効果ガス排出量・吸収量の推計方法に関する様々な指針を最新の科学に基づき提示
- パリ協定で必要とされている透明性確保の枠組み強化にも貢献すると期待される



その他の活動：専門家会議等の開催

- 評価報告書、特別報告書、方法論報告書など主要な報告書作成以外にも、様々なテーマで専門家会議やワークショップが開催され、その結果が出版されている
 - ・ 都市と気候変動の科学に関する会議(2018年3月)[UN-Habitat等と共催]
 - ・ 気候変動の地域別評価に関する専門家会議(2018年5月)
 - ・ 短寿命気候強制因子(SLCF)に関する専門家会議(2018年5月) /等

「生物多様性と気候変動に関するワークショップ」

<https://www.ipcc.ch/event/ipcc-ipbes-workshop/>

2020年12月、IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム）と共催

- 生物多様性保全と気候変動の緩和・適応の間の相乗効果やトレードオフに焦点をあて、どうしたら人類と地球への便益を最大化できるかについて議論を深めた。



第6次評価報告書 (AR6)

- 特別報告書（SR15, SRCCL, SROCC）の内容も踏まえつつ、最新の科学的知見をもとに作成される

- 3つのWGレポートと統合報告書

2021年8月最終承認

- WGI レポート（Climate Change 2021: 自然科学的根拠）
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-working-group-i/>
- WGII レポート（Climate Change 2022: 影響、適応と脆弱性）
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-working-group-ii/>
- WGIII レポート（Climate Change 2022: 気候変動の緩和）
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-working-group-3/>
- 統合報告書（Climate Change 2022）
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-cycle/>

第6次評価報告書 (AR6): 今後の予定

(2021年9月30日現在の予定)

時期	イベント
2021年10月1日～ 11月26日	WG2報告書のSPM案の最終政府レビュー
2021年11月29日～ 2022年1月30日	WG3報告書のSPM案の最終政府レビュー
2022年1月10日～ 3月20日	統合報告書案の政府・専門家レビュー
2022年2月14～18日	IPCC第55回総会/WG2第12回総会 (WG2報告書の承認)
2022年3月21～25日	IPCC第56回総会/WG3第14回総会 (WG3報告書の承認)
2022年6月13日～ 8月7日	統合報告書のSPM案の最終政府レビュー
2022年9月26～30日	IPCC第57回総会 (統合報告書の承認)

IPCCの今後：第7次評価期間

- 第6次評価期間はAR6統合報告書の完成をもって実質的には終了
- 2023年春に開催されるIPCC第58回総会で、新たなビューローメンバー（議長団）の選挙が行われ、新体制で第7次評価期間が始まる予定
- 第7次評価期間の活動計画は、新体制のもとで決定される予定。ただし、次の二つの報告書を作成することは既に決まっている
 - ・ 気候変動と都市に関する特別報告書
 - ・ 短寿命気候強制因子(SLCF)排出量計算の方法論報告書

Home IPCC

IPCC-TFI Home

Organization

Technical Support Unit

NGGIP Publications

Presentations

Meetings

Support to Inventory Compilers

The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) was established by the World Meteorological Organization (WMO) and the United Nations Environment Programme (UNEP) in 1988. Its main objective was to assess scientific, technical and socio-economic information relevant to the understanding of human induced climate change, potential impacts of climate change and options for mitigation and adaptation. The IPCC has completed four assessment reports, developed methodology guidelines for national greenhouse gas inventories, special reports and technical papers. For more information on the IPCC, its activities and publications, please see the [IPCC homepage](#).

The IPCC National Greenhouse Gas Inventories Programme (IPCC-NGGIP) had been undertaken since 1991 by the IPCC WG I in close collaboration with the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) and the International Energy Agency (IEA).

[\[More about IPCC-NGGIP \]](#)

ご清聴ありがとうございました。
IPCCに関するさらなる情報は以下をご参照ください。

<https://www.ipcc.ch/>

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/ipcc>

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbes-ipcc-ws/ja>

SB32

- Presentation of Side Event at UNFCCC-SB32 in Bonn, 31 May 2010 has been uploaded on [Presentations](#). (1 June 2010)

[Meeting Documents Available](#)

- [Meeting Report](#)

[Future meetings](#)

-

[Previous Meetings](#)

- IPCC Expert Meeting on Uncertainty and Validation of Emission Inventories